



令和7年3月1日現在	
世帯数	997戸
人口	2,306人
男	1,148人
女	1,158人

退任のご挨拶

内田地区子ども会育成会

会長 丸山 宇一

令和3年度から二期4年、内田子ども会育成会会長を務めさせていただきました。

コロナ感染症流行の中でスタートしましたが、学校と歩調を合わせ、育成会も全ての行事を工夫して運営してきました。役員6名と6年生の有志で計画し、公民館や福祉ひろばの協力を得て、多くのお子さんに行事に参加いただきありがたかったです。

11月30日には公民館や保存会の皆さんと共に、市民芸術館でさらさら踊りの発表もでき、15名の小中学生の熱演に、心打たれました。

役員の負担を減らすようにも努めました。皆様方のご協力に深く感謝いたします。

内田地区体育協会

会長 上條 健司

この度2年の任期を終え退任

が「楽しく・笑顔でチャレンジ」でき、健康寿命を延ばす事が一番のテーマです。お陰様で昨年度の地区球技大会にて公式種目として「ポッチャ」が新種目に加わった事で、一つの役割を果たしたとの思いで関係者各位の皆様へ感謝の気持ちでいっぱいです。笑顔溢れる内田地区になる事を願っております。

(前)内田公民館長

丸山 明良

早いもので公民館長に就任以来7年が経ちました。

内田地区の皆様には多大なるご協力、ご支援を賜り、ありがたく感謝申し上げます。おかげをもちまして、知識も経験もない私が、任期を振り返る挨拶をすることができるときを迎えることができました。

さて、7年間の公民館生活を振り返りますと、平成30年に「牛伏川本流水路（フランス式階段工）」が完成から100年を迎え記念行事が開催されました。

平成24年に国指定の重要文化財となりましたが、その要因には「牛伏川砂防堰堤期成同盟会（代表：故中島賢朗さん）」の地道な活動や今は解散した「牛伏鉢友友の会（代表：加藤輝和さん）」の砂防施設の草刈や、トイレ掃除などのボランティア活動があったことを忘れてはならないと思います。

令和2年には内田地区が松本市と合併して60年を迎えることを記念して内田町会連合会を中心となり実行委員会を立ち上げ、「山ふところの里内田めぐりかると」を作成しました。かいたの読み札の原案を作成いただいた、元内田公民館主事の塩原健さん、取り札の描画を担当いただいた、神谷節子さん、田中さつきさんの内田地区の自然、歴史、文化等を次の世代へ残したいという願いが伝わりました。

令和6年11月には「まつもと市民芸術館主会場」において内田の伝統文化「内田ササラ踊り」がテレビ松本開局50周年記念事業「子どもたちのゆめ舞台」に出演しました。「子ども会育成会（会長：丸山宇一さん）」の小中学生を中心に中学生の参加で15名の子どもたちと、ササラ踊り保存会（ササラ踊り実行会）の10名の総勢25名の皆さんがササラの音も力づよく、見事な踊りを披露し、主催者から高い評価をいただきました。

子供たちの記憶にも、ササラ踊り保存会の記録にも残るゆめ舞台でした。

内田を想う皆様の熱い願いに支えられての7年間であります。

さらなる内田地区の発展を心よりご祈念申し上げます。退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

ニユースポーツ体験会

1月26日(日)に内田公民館でニユースポーツ体験会が行われました。

昨年に引き続き、今回の種目はモルックとポッチャです。

特にポッチャは、今年購入したポッチャ専用のコートのお披露目となりました。

初めてみるポッチャのコートに驚きながらも参加者は笑顔でプレーしました。

モルックでは大逆転があり、盛り上がりとなりました。

寒さを吹き飛ばす、楽しい体験会でした。



人権視察研修

2月18日(火)に人権啓発の視察研修で静岡県にある「盲導犬の里富士ハーネス」に行きました。

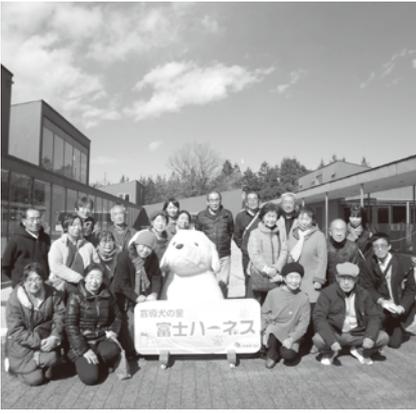
ここは盲導犬のトータルケアや訓練などを行う施設で、休館日を除けば見学をすることができます。施設内では、盲導犬の歴史を見学し、盲導犬のデモンストラレーションを見ました。

階段の段差を前にピタリと止まる盲導犬に参加者からは拍手が起りました。

そしてその後、職員の方から、盲導犬ユーザーへのお願いと注意事項についてお話がありました。

必要とする人に対して盲導犬はまだまだ少ないのが現状で、街中でも見かけることが少ないです。

ですが、もし見かけたら今回の研修を忘れずに行動したいと思えます。



おつまみ料理講座



2月21日(金)に内田公民館で5年振りにおつまみ料理講座が開催されました。

おつまみとなる料理はみんなで作り、お酒は参加者が飲みたいものを持ち込みました。

メニューは、『カリカリチーズ焼き』、『ケリスピーポテト』、『とりむね肉のみそマヨ焼き』、『もやし春雨』、『小松菜のやみつき腸活海苔和え』、『納豆クリームチーズ』でした。

どれも簡単にできてそれでいて美味しいメニューです。

少し苦戦しながらも皆さん楽しそうに調理



をしていました。

完成した料理が机に並んだら、待ちに待った乾杯です。

皆さん、自分たちで作った料理を褒めながら、楽しそうにお酒を飲んでいました。

コロナ禍を越え久々の開催となったおつまみ料理講座。『来年もぜひ』との声がありました。

今回参加できなかった方もぜひ次回はお越しください。

つれづれ編集記

この3月を待ちまして、2年間の任期を満了致しました。各町会の編集委員の皆様、公民館長、主事、そして各号に寄稿いただいた方々に御礼申し上げます。

コロナ禍で中止されていた各行事も徐々に再開され、紙面にも賑やかさが戻ってきました。

一方で、行事の大変さもクローズアップされ、再開の賛否が問われた年でもありました。

館報は各種行事の広報や報告の役も担っていますので賑やかい事に越した事はありませんが、町会としては運営が難しい局面になりつつある様にも感じた2年間でした。

さて、皆さんは館報にどのような印象をお持ちでしょうか？ 私は、この役に就くまでは、正直あまり目を通していませんでした。2年間、編集委員として毎号目を通して、きました。寄稿を通じて、改めてこの地区は交流が多く人付き合いを大切にしている地区だなと感じた次第です。

市のHPには、令和6年4月現在で人口約23000人、高齢化率約31%と載っています。

す。市全体の高齢化率は約29%との事ですので、高い。しかし要介護認定率は市全体が約11%に対して約8%と低いようです。この辺りも交流で活性化している事が影響しているかもしれません。

そんな事も頭の隅に置いて、退任後も内田のメイン情報紙として目を通す様に心掛けて行きたいと思えます。2年間、ありがとうございました。

館報編集委員長 藤井 憲郎

令和5・6年度

館報編集委員会

- 第1町会 前澤 芳成
- 第2町会 中島 源
- 第3町会 小池 栄一
(全市版担当)
- 第4町会 長瀬 仁史
- 第5町会 藤井 憲郎
(委員長)
- 第6町会 大和 義史
- 第7町会 上山 祥子
- 第8町会 山本 秀樹
- 第9町会 高橋 ふくみ
(副委員長)